

8XTi COAXIAL ENCLOSURE

VERSION 1.0



ユーザーマニュアル JP



1 安全規則

本マニュアルに記載されている情報はすべて、L-ACOUSTICS® 8XTi 同軸エンクロージャー（本章では“製品”と呼称します）に関する詳細です。

1.1 マークの説明

本マニュアルでは危険性がある事柄について、次のマークで表しています。



WARNING のマークは、製品の近くにいるユーザーやその他の人々へ身体的危害を与える恐れがあることを意味します。
さらに、製品自体も損傷を受ける可能性があります。



CAUTION のマークは、製品に損傷を与えないようにするための注意点です。



IMPORTANT マークは、使用するにあたって推奨する重要な点を挙げています。

1.2 安全面の重要な注意事項

1. 本マニュアルを読むこと。
2. 安全に関する注意点すべてに留意すること。
3. すべての指示に従うこと。
4. L-ACOUSTICS® が承認していない機材やアクセサリを決してシステムに組み込まないこと。



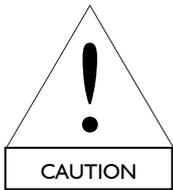
5. サウンドレベル

このサウンドシステムは高い音圧レベルを生成するため、危険です。特に長時間に渡ってそのような環境にいると聴力が衰えることとなりますので、使用中はあまりラウドスピーカーの近くに寄らないでください。



6. 熱

熱を含むもの（ラジエーターや他のデバイス）の近くで本製品を操作しないでください。



7. 水分と湿気

本製品は耐候性ではありませんが、水分(雨、海水、水しぶき、霧)の多い場所で直接的に長時間さらすことはできません。また、水に直接触れさせたり浸したりしてもいけません。このようなことをすると、取り返しのつかないダメージを招くことになります。



8. システムのパーツとリギング

いかなる不具合を見つけ出すため、使用する前に全システムのコンポーネントを必ず点検してください。点検する際には本マニュアルの「手入れと保守管理」の項と、システムを構成するその他のマニュアルにある点検方法の詳細をご参照ください。



9. マウント時の注意点

本製品を不安定な場所(カート、スタンド、三脚、ブラケット、テーブルなど)に置かないでください。落下した場合に破壊、損傷を招きます。製品をマウントするときはメーカーの指示に従い、メーカーが推奨するマウント用アクセサリーを使用してください。



10. 緊急な修理を要する場合

次のようなダメージを負っているときには製品を修理に出してください。

- 雨天や高湿度の環境に本製品をさらしてしまった。
- 本製品を落下させた、あるいは筐体に損傷がある。
- 正常な動作をしない。



11. マニュアル

製品が機能している間は、このマニュアルを大事に保管しておいてください。本マニュアルは製品の一部です。マニュアルが無いと、本機を転売することはできません。製品に施したいかなる変更点も書類に記して、購入者へ手渡すようにしてください。

1.3 EC 適合の通知書

L-ACOUSTICS®

13 rue Levacher Cintrat
Parc de la Fontaine de Jouvence
91462 Marcoussis Cedex
France

JP

States that the following product:

Loudspeaker enclosure, 8XTi

Is in conformity with the provisions of:

Machinery Directive 2006/42/EC
Low Voltage Directive 2006/95/EC

Applied rules and standards:

EN ISO 12100-1: 2004 (Mechanical Safety)
EN60065 (Electrical Safety)

Established at Marcoussis, France

November 10th, 2009

A handwritten signature in black ink, appearing to read 'Pignon', enclosed within a circular scribble.

Christophe Pignon

2 目次

1	安全規則	1
1.1	マークの説明	1
1.2	安全面の重要な注意事項	1
1.3	EC 適合の通知書	3
2	目次	4
3	はじめに	5
3.1	L-ACOUSTICS® へようこそ	5
3.2	箱を開ける	5
4	XTi 固定設備シリーズ	6
5	8XTi 同軸エンクロージャー	8
6	設置	9
6.1	8XTi のフライング/スタッキング	9
6.2	スピーカーへの接続	9
7	操作	11
7.1	システム構成	11
7.2	“フルレンジ”モード	11
7.2.1	概要	11
7.2.2	8XTi を LA4jp に接続する	11
7.2.3	[8XT_FR]、[8XT_FI]、[8XT_MO]プリセット	12
7.3	“ハイパス”モード	12
7.3.1	概要	12
7.3.2	8XTi を LA4jp に接続する	12
7.3.3	[8XT_FR_100]、[8XT_FI_100]、[8XT_MO_100]プリセット	13
7.4	“ハイブリッド”モード	13
7.4.1	概要	13
7.4.2	8XTi と SB118 を LA4jp に接続する	13
7.4.3	[8XT_SB118]プリセット	14
8	手入れとメンテナンス	15
8.1	メンテナンス情報	15
8.2	テストの方法	15
8.2.1	トランスデューサーとエンクロージャーの音響性能を点検する	15
8.2.2	メカニカルアッセンブリーとリギングパーツを確認する	15
8.2.3	外観を点検する	15
8.3	トランスデューサーの修理	16
8.3.1	LF ラウドスピーカー	16
8.3.2	HF ドライバーまたはダイアフラム	16
8.4	スペアパーツと推奨する道具	17
9	仕様	18

3 はじめに

3.1 L-ACOUSTICS® へようこそ

L-ACOUSTICS® 8XTi 同軸エンクロージャーをお買い上げいただきまして、有難うございます。

本マニュアルには、製品を正しくかつ安全に設置し、操作していただくための重要な情報が含まれています。その手順に慣れていただくためにも、本マニュアルをよくお読みください。

技術と規格は常に進展していくため、L-ACOUSTICS®は事前に通告することなく製品の仕様や本マニュアルの内容を変更する権利を保持します。最新のアップデートは L-ACOUSTICS 社のウェブサイト(www.l-acoustics.com)を定期的にご覧になり、ご確認ください。

製品に修理が必要な場合や保証に関してお知りになりたい場合は、L-ACOUSTICS®の代理店までご連絡ください。連絡先は巻末にあります。

3.2 箱を開ける

ダンボールを注意して開け、製品に損傷がないかどうかをお確かめください。L-ACOUSTICS では出荷する前に全製品をテスト、検査しているため、製品は完全な状態でお届けされるはずですが。

ダメージが見つかった場合には代理店へ即座にご連絡ください。輸送中に生じた損傷を輸送業者に対して申し立てできるのは荷受人のみであることがあります。輸送業者が行う検査のためにも、ダンボールやパッキング素材は保管しておいてください。

4 XTi 固定設備シリーズ

L-ACOUSTICS®8XTiエンクロージャーは、XTi固定設備シリーズの中で最もコンパクトなモデルです。再生帯域幅は65Hz～20kHzですが、L-ACOUSTICS®SB118サブウーファーを加えることで32Hzまでレスポンスを広げられます。

L-ACOUSTICS®が XTi シリーズのために開発したシステムアプローチは、最適なシステム構成を成り立たせるエレメントを使用して初めて利点を十分に行かせるようになります。システムの主なコンポーネントは次の通りです(図1も参照):

8XTi *	⇒パッシブ・コンパクト同軸エンクロージャー
12XTi *	⇒パッシブ・多目的同軸エンクロージャー
ETR8XTi *	⇒8XTiエンクロージャー用マウントアクセサリ
ETR12XTi *	⇒12XTiエンクロージャー用マウントアクセサリ
EMBi *	⇒8XTi/12XTiエンクロージャー用ポールマウントソケット
SB118	⇒サブウーファー・エンクロージャー
LA4jp	⇒アンプリファイド・コントローラー
LA NETWORK MANAGER	⇒リモートコントロールソフトウェア
SOUNDVISION	⇒モデリングソフトウェア

*標準カラーは2色: グレーブラウンRAL®またはピュアホワイトRAL9010®(8XTiと12XTiのスペックシートを参照)

XTi シリーズのコンポーネントでも標準の L-ACOUSTICS®アクセサリを使用できます。アクセサリに含まれている L-ACOUSTICS®のラウドスピーカーケーブル SP.7(0.7m)、SP10(10m)、SP25(25m)は、それぞれ、長さが0.7m、10m、25mとなっており、これらのケーブルを用い、8XTi/12XTi エンクロージャーを LA4jp アンプリファイド・コントローラーに接続することができます。各ケーブルとも断面積が 4mm²(13 SWG、11 AWG)の 4 芯で、4-point のスピコンコネクタが付いています。

8XTi と 12XTi は、L-ACOUSTICS®LA4jp アンプリファイド・コントローラーでドライブ、パワリングされます。このアンプリファイド・コントローラーは、エンクロージャーのインテリジェント保護、フィルタリング、イコライゼーションを確実なものとし、アンプリフィケーションの 4 つのチャンネルは、コンフィギュレーションの限度内におけるシステムの性能の最適化を確実にする OEM ファクトリー・プリセット・ライブラリーと共に推奨されます。

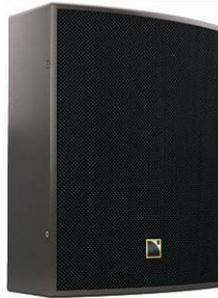
L-ACOUSTICS®SOUNDVISION ソフトウェアを使用して、いつでも前もってシステムデザインをモデリングし、予測しておくようになります。ここで得られた予測値は、アンプリファイド・コントローラーに組み込まれたプリセットパラメーターに対応します。

L-ACOUSTICS®LA NETWORK MANAGERソフトウェアを使用すると、L-ACOUSTICS®のL-NETネットワークを介して、最高253台までのアンプリファイド・コントローラーを制御可能となります。

LA4jpアンプリファイド・コントローラー、SOUNDVISION、LA NETWORK MANAGERソフトウェアの使用に関する詳しい説明が、このマニュアルでは及ばない場合は、L-ACOUSTICSのウェブサイトwww.l-acoustics.com上の資料をご参照ください。



8XTi



12XTi



ETR8XTi



ETRI2XTi



EMBi



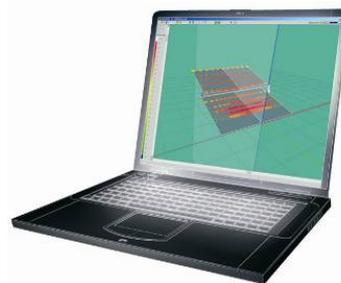
LA4JP



SBI18



LA NETWORK MANAGER



SOUNDVISION



SP.7



SP10



SP25

図 1: XTi シリーズのコンポーネント

5 8XTi 同軸エンクロージャー

L-ACOUSTICS®8XTi エンクロージャーのバスレフ型エンクロージャーには、1.5 インチのダイアフラムコンプレッションドライバと 8 インチの低域トランスデューサーが(HF の指向性コントロールのために)同軸配列されています。内蔵されたパッシブ・クロスオーバー・ネットワークは、L-ACOUSTICS®が独自に開発された 3 次フィルターを用います。トランスデューサーの線形化と保護は LA4jp に含まれるドライブパラメーターによって決まります。8XTi の公称インピーダンスは 8 Ω です。

同軸配列したトランスデューサーは 100° に軸対称の指向性を生成するだけでなく、周波数において音響的な干渉をまったく発生させずに滑らかな音色を生み出します。

V 字型にデザインされた 8XTi のキャビネットは、あらゆる多目的 SR アプリケーションに対応します。このキャビネットは、ポール、壁、天井に取り付けることが可能です。

8XTiのキャビネットは高品質なバルト地方産樺の合板から作られており、卓越した機能性と音響特性、そしてより優れた長期耐久性を備えています。

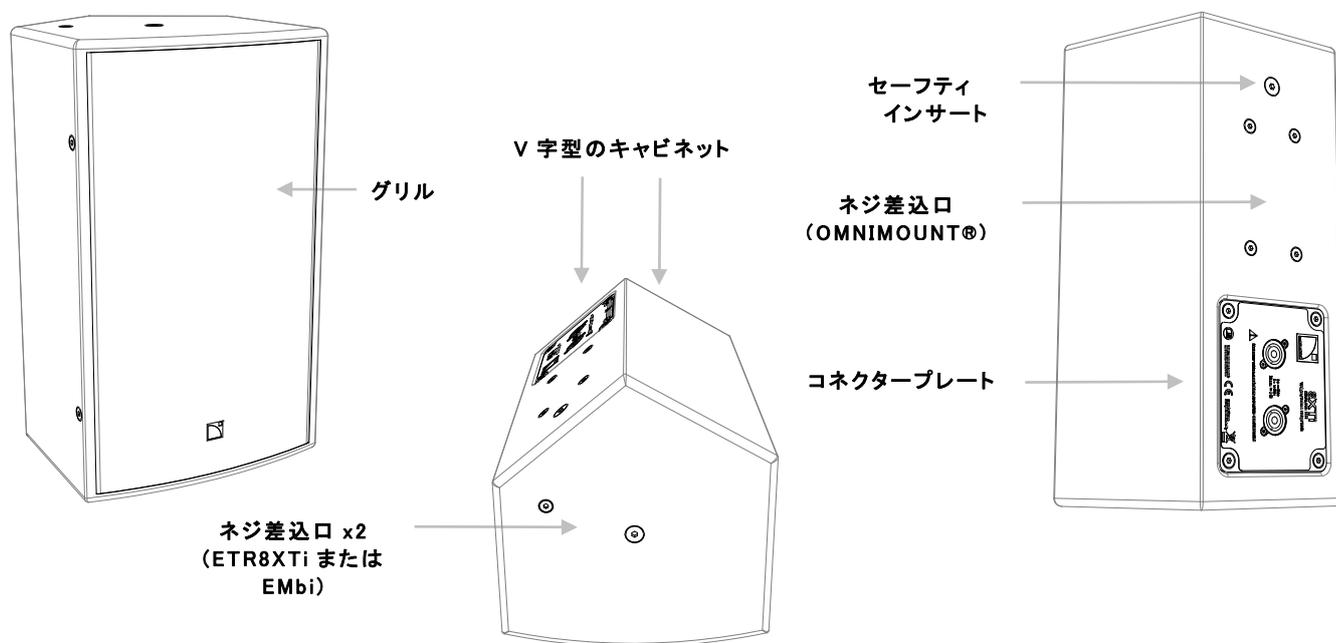


図 2: 8XTi エンクロージャー

6 設置

6.1 8XTi のフライング/スタッキング

8XTi のネジ穴と V 字型のキャビネットデザインにより(図 2 参照)、多様なセットアップが可能です:

- マウント用アクセサリ L-ACOUSTICS®ETR8XTi を使用して壁または天井に取り付ける。
- マウント用アクセサリ OMNIMOUNT®30.0 シリーズを使用して壁または天井に取り付ける。
- L-ACOUSTICS®EMBi 35mm ソケットを使用してポールマウンティングする。
- 垂直面に対して 30° と 40° に固定された 2 種類の角度を利用してスタッキングする。



エンクロージャーを設置する前に“XTi”リギングマニュアルをご参照ください。

6.2 スピーカーへの接続

8XTiエンクロージャーのドライブとパワリングには、L-ACOUSTICS®LA4jp アンプリファイド・コントローラーを使用します。各 LA4jp のチャンネルで、8XTiエンクロージャーを 1 台または 2 台(パラレル接続で)ドライブすることができます。詳細は、L-ACOUSTICS®のウェブサイト(www.l-acoustics.com)で“LA4jp”ユーザーマニュアルをご覧ください。

8XTiエンクロージャーには 4-point のスピコンコネクターが備わっており、L-ACOUSTICS®SP.7、SP10、または SP25 ケーブルを使用し、LA4jp アンプリファイド・コントローラーと接続することができます。

LA4jp への 8XTiエンクロージャーの接続には同じケーブルを使用することをお勧めします(図1と図3参照)



LA4jp のアウトプットチャンネル 1chにつき、最大で 2 台の 8XTi エンクロージャーの接続が可能です。

L-ACOUSTICS®のワイアリングは、以下の通りです:

スピコンコネクターの表示	トランスデューサーへの接続
1+	IN +
1-	IN -
2+	接続無
2-	接続無

8XTi COAXIAL ENCLOSURE

USER MANUAL

VERSION 1.0

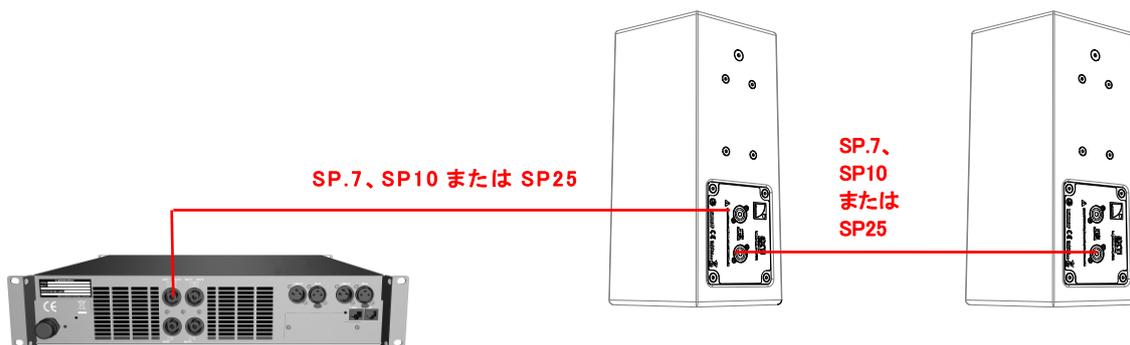


図 3: 8XTi 1 台を LA4jp アンプリファイド・コントローラーのチャンネル#1 に接続



高い性能と安全性の両方を確実にするために、L-ACOUSTICS®は銅線による高品質な絶縁ケーブルのみを使用することを推奨します。また、優れた減衰係数を維持するための一般的なガイドラインとして、低抵抗のゲージのものを選び、できるだけケーブルは短くするようにしてください。

下記の表は、ケーブルの断面積に対し、推奨するケーブルの長さを示しています。LA4jp に接続したインピーダンスの負荷に応じて 2 つのケースが可能となります(パラレル接続した 8XTi エンクロージャー 1 台で 8 Ω、2 台で 4 Ω):

表 1: 最大のケーブル長と断面積との関係 ダンピングファクター>20

断面積			8XTi 1 台のケーブル最大長 (8 Ω load)		8XTi 2 台のケーブル長 (4 Ω load)	
mm ²	SWG	AWG	m	ft	m	ft
2.5	15	13	30	100	15	50
4	13	11	50	160	25	80
6	11	9	74	240	37	120
10	9	7	120	390	60	195

表1の計算では、1本のSP25ケーブル(4mm²、25m)で、ダンピングファクターが20以上を保ったまま、8 Ω の負荷で、パラレル接続の8XTi 2台をパワリングできます

7 操作

7.1 システム構成

システム構成の選択は、エキスパート(システムエンジニアまたは音響コンサルタント)が導き出した電気音響の研究結果に従ったほうがよいでしょう。しかしながら、サウンドデザインの解釈は本マニュアルの範疇外であることから、これに関し、ここで議論することはいたしません。この研究は、メーカーの8XTiデータ、特定のシチュエーションでの用法、音が放射される環境などを考慮して電気音響を予測し、SOUNDVISIONでモデリングしたシミュレーションを基にすることができます。

3つのオペレーションモード(“フルレンジ”、“ハイパス”、そして“ハイブリッド”)があり、どのモードもファクトリープリセットに関連しており、一般的な構成(C、LR、LCR、分散パターン…)を構築することができます。

8XTiエンクロージャーは、“フルレンジ”モードでのスタンドアロンシステム、または、“ハイパス”モードと“ハイブリッド”モードでサブウーファーと組み合わせて使用することができます。

各モードはプリセットに違いがあります。“FRONT”プリセットはFOHに、“FILL”プリセットは分散型アプリケーションに、そして“MONITOR”プリセットはハーフスペース設置のオペレート条件に合うようになっています。



- LA4jpの出力チャンネルのアサインメントは選択したプリセットにより変わります。
- オペレートする前には必ず、8XTiを正しい出力チャンネルに接続してあることをご確認ください。

注: プリセットライブラリーの最新バージョンは、L-ACOUSTICS®の正規販売代理店から供給されます。また、L-ACOUSTICS®のウェブサイト(www.l-acoustics.com)からダウンロードすることも可能です。

7.2 “フルレンジ”モード

7.2.1 概要

“フルレンジ”モードで、8XTiエンクロージャーは、低域の拡張を必要としないアプリケーションにおいて、公称帯域幅内(65Hz-20kHz)でのスタンドアロン構成に用います。

7.2.2 8XTiをLA4jpに接続する

各8XTiとも、LA4jpの出力チャンネルに接続します。最初に接続した各8XTiエンクロージャーに平行接続で、8XTiエンクロージャーを1台加えることができます。従って、LA4jp 1台で最高8台の8XTiをドライブ可能です。(図4)。

注: LA4jp 1台につき、8XTiの台数が4台または8台のときにシステムリソースは最適化されます。

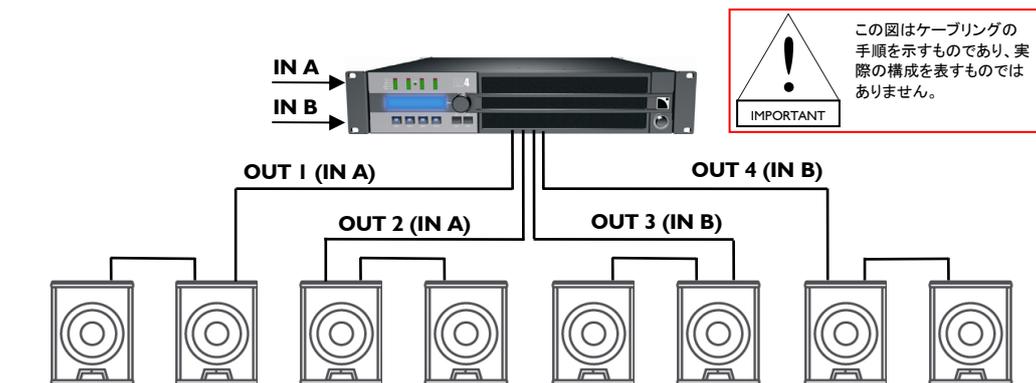


図 4: 8XTi 8 台を LA4jp コントローラー 1 台に接続する

7.2.3 [8XT_FR]、[8XT_FI]、[8XT_MO]プリセット

[8XT_FR] “FRONT”プリセットは、LF と HF のシェルビング EQ を備えており、サブウーファーを使用しないスタンドアローンの FOH アプリケーションに用います。

[8XT_FI] “FILL”プリセットは、フリーフィールドのコンディションで、“フラット”なコンターを生み出し、スピーチの補強、クラシック音楽、または近距離でのフィルに用います。

[8XT_MO] “MONITOR”プリセットは、“フラット”なコンターを生み出し、ハーフスペースの設置時状況で、フロアモニターや、壁や天井にマウントして用います。

LA4jp フロントパネルからLOAD PRESETメニューを起動し、それから希望するプリセットを選択します。詳しい方法については“LA4jp”のユーザーマニュアルをご参照ください。LA NETWORK MANAGERソフトウェアを使ってプリセットを操作することも可能です(“LA NETWORK”のユーザーマニュアルを参照)。“フルレンジ”モードで操作できるプリセットは、次の表の通りです:

表 2: “フルレンジ”モードで使用可能なパラメーター

LA4jp 入力/出力	接続するエレメント	プリセットのアサインメント*	変更可能: (○) 変更不可能: (×)			
			ミュート	ゲイン	ディレイ	極性
IN A	入力信号 A	IN_A	×	○	○	○
IN B	入力信号 B	IN_B	×	○	○	○
OUT 1	8XTi エンクロージャー	PA_A	○	○	○	○
OUT 2	8XTi エンクロージャー	PA_A	○	○	○	○
OUT 3	8XTi エンクロージャー	PA_B	○	○	○	○
OUT 4	8XTi エンクロージャー	PA_B	○	○	○	○

* IN: 入力信号 A,B: チャンネルA,B PA: パッシブエンクロージャー

7.3 “ハイパス”モード

7.3.1 概要

“ハイパス”モードでは、SB118サブウーファーを使用する際に100Hzでハイパスフィルターがかかるようになっていきます。SB118を加えたシステムの帯域幅は32Hzまで下がります。推奨する台数比は、8XTi 2台に対してSB118 1台となります。

7.3.2 8XTi を LA4jp に接続する

各8XTiとも、LA4jpのアウトプットチャンネル1~4に接続します。最初に接続した各8XTiエンクロージャーに平行接続で、8XTiエンクロージャーを1台加えることができます。従って、LA4jp 1台で最高8台の8XTiをドライブすることになります(図5)。

注: LA4jp 1台につき、8XTiの台数が4台または8台のときにシステムリソースは最適化されます。

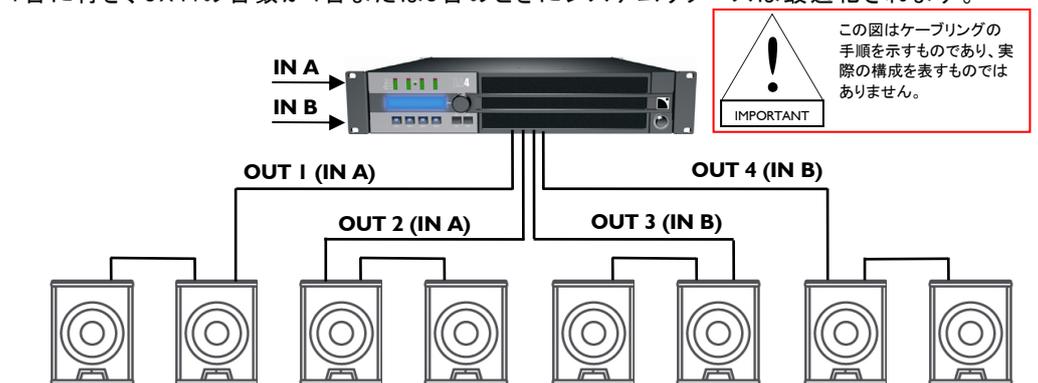


図 5: 8XTi 8 台を LA4jp コントローラー 1 台に接続する

7.3.3 [8XT_FR_100]、[8XT_FI_100]、[8XT_MO_100]プリセット

[8XT_FR_100] “FRONT”プリセットは、HF のシェルビング EQ と 100Hz のハイパスフィルターを備えており、サブウーファーを使用する FOH のアプリケーションに用います。

[8XT_FI_100] “FILL”プリセットは、フリーフィールドのコンディションで、100Hzまで下がる“フラット”なコンターを生み出し、スピーチの拡声、クラシック音楽、または近距離でのフィルに用います。

[8XT_MO_100] “MONITOR”プリセットは、ハーフスペースの設置状況で、100Hzまで下がる“フラット”なコンターを生み出し、フロアモニターや、壁や天井にマウントして用います。

LA4jpフロントパネルからLOAD PRESETメニューを起動し、それから希望するプリセットを選択します。詳しい方法については“LA4jp”のユーザーマニュアルをご参照ください。LA NETWORK MANAGERソフトウェアを使ってプリセットを操作することも可能です(“LA NETWORK MANAGER”のユーザーマニュアルを参照)。“ハイパス”モードで操作できるパラメーターは、次の表の通りです:

表 3: “ハイパス”モードで使用可能なパラメーター

LA4jp 入力/出力	接続するエレメント	プリセットのアサインメント*	変更可能: (○) 変更不可能: (×)			
			ミュート	ゲイン	ディレイ	極性
IN A	入力信号 A	IN_A	×	○	○	○
IN B	入力信号 B	IN_B	×	○	○	○
OUT 1	8XTi エンクロージャー	PA_A	○	○	○	○
OUT 2	8XTi エンクロージャー	PA_A	○	○	○	○
OUT 3	8XTi エンクロージャー	PA_B	○	○	○	○
OUT 4	8XTi エンクロージャー	PA_B	○	○	○	○

* IN: 入力信号 A: チャンネルA. B: チャンネルB. PA: パッシブエンクロージャー

注: SB118サブウーファーは追加したLA4jpまたはLA8jpに接続するようにしてください。“SB118”のユーザーマニュアルをご参照ください。

7.4 “ハイブリッド”モード

7.4.1 概要

“ハイブリッド”モードでは、8XTiとSB118エンクロージャーを同じLA4jpに接続します。これにより、必要となるユニットの台数を制限することができます。このシステムでは、帯域幅を32Hzまで下げることができます。推奨する台数比は8XTi 2台に対し、SB118 1台となります。

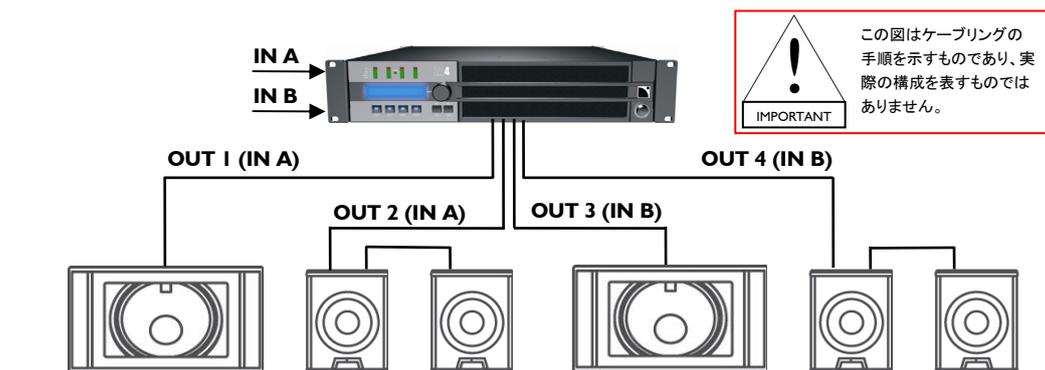
7.4.2 8XTiとSB118をLA4jpに接続する

8XTiとSB118エンクロージャーを下記の手順でLA4jpのアウトプットに接続します: チャンネル1と3は、それぞれSB118 1台専用となり、チャンネル2と4は8XTiエンクロージャー専用となります。8XTiには、さらにもう1台8XTiを追加し、パラレル接続することができます。従って、1台のLA4jpで、8XTiを4台、SB118を2台までドライブすることができます(図6参照)。



LA4jp のアウトプットチャンネル 1 と 3 には最大で 1 台の SB118 を継続できます。

注: LA4jp 1台につき、8XTiが2台または4台、SB118が2台のときにシステムリソースは最適化されます。



この図はケーブルリングの手順を示すものであり、実際の構成を表すものではありません。

IMPORTANT

図 6: 8XTi 4 台と SB118 2 台を LA4jp コントローラー 1 台に接続する

7.4.3 [8XT_SB118]プリセット

[8XT_SB118]プリセットは、HFのシェルビングEQを備えており、FOHのアプリケーションに用います。LFとHFセクション間のクロスオーバー周波数は100Hzに設定されています。

LA4jpフロントパネルからLOAD PRESETメニューを起動し、それから[8XT_SB118]プリセットを選択します。詳しい方法については“LA4jp”のユーザーマニュアルをご参照ください。LA NETWORK MANAGERソフトウェアを使ってプリセットプリセットを操作することも可能です(“LA NETWORK MANAGER”のユーザーマニュアルを参照)。“ハイブリッド”モードで操作できるプリセットは、次の表の通りです:

表 4: “ハイブリッド”モードで使用可能なパラメーター

LA4jp 入力/出力	接続するエレメント	プリセットのアサインメント*	変更可能: (○) 変更不可能: (×)			
			ミュート	ゲイン	ディレイ	極性
IN A	入力信号 A	IN_A	×	○	○	○
IN B	入力信号 B	IN_B	×	○	○	○
OUT 1	SB118 エンクロージャー	SB_A	○	○	○	○
OUT 2	8XTi エンクロージャー	PA_A	○	○	○	×
OUT 3	SB118 エンクロージャー	SB_B	○	○	○	○
OUT 4	8XTi エンクロージャー	PA_B	○	○	○	×

* IN: 入力信号 A, B: チャンネル A, B PA: パッシブエンクロージャー SB: サブウーファー・エンクロージャー

8 手入れとメンテナンス

8.1 メンテナンス情報

L-ACOUSTICS®8XTiエンクロージャーは、屋内・屋外のさまざまなSRアプリケーションに対応するようにデザインされた製品です。厳しい条件に対応できるように、8XTiにはハイグレードで信頼できるコンポーネントが用いられています:

- 耐候性のトランスデューサー
- バルト地方産樺の合板で作られたキャビネット
- 非生物分解性の“Airnet”ファブリックでカバーされた、ポリエステルコーティングのスチール製グリル
- 耐サビ対策を施したネジとリギングポイント

しかしながら、確実に製品の安全性と性能を保つためには、8XTiキャビネットと内部コンポーネントを頻繁に点検することが不可欠です。この点検は、システムの使用条件に基づき、定期的に行う必要があります。点検の手順は、セクション8.2の通り、3つの手順があります。もし、トランスデューサーの修理・交換が必要な場合、セクション8.3の手順に従ってください。

8.2 テストの方法

8.2.1 トランスデューサーとエンクロージャーの音響性能を点検する

LA4jpアンプリファイド・コントローラーのアクティブインプットにスイープ周波数ジェネレーターを接続し、0.2ボルトの最大電圧(-12dBu、-14dBV)を流します。そして65Hz～20kHzのスイープをかけてください。このとき、サウンドはピュアで不要なノイズが一切ない状態であるはずですが、もし、ノイズなどが聞こえたときは、アッセンブリーチェックし、必要であれば代理店へ損傷部品の修理または交換を依頼してください(セクション8.3参照)。



最大で0.2Vとなり、特定の周波数帯ではサウンドレベルが非常に高くなります。テスト時には耳栓を使うなどして保護してください。

トランスデューサーを再び接続するときは、常にフェーズチェッカーを使用してワイアリングの極性を確認してください。トランスデューサーの極性がずれている場合、電子ソケットに接続されているケーブルを反転させてください。接続の手順はセクション8.3に示されています。

8.2.2 メカニカルアッセンブリーとリギングパーツを確認する

アッセンブリーの状態を検査し、ネジがしっかりと締まっていることを確かめ(ラウドスピーカー、ダイアフラム、グリル)、スピコンソケットの接触具合とロック動作を確かめます。

8.2.3 外観を点検する

掃除機などでグリルについた埃を取り除きます。必要があれば、キャビネットを塗装し直します。



ペイントを施す場合には、機械部を保護してください。フロントグリルファブリックに付いてしまいますと、穴が塞がり、音の透過性が悪くなります。

8.3 トランスデューサーの修理

8.3.1 LF ラウドスピーカー

損傷がある場合、8インチのLFラウドスピーカーを下記の手順で取り除き、修理または交換してください。リコーンキットも提供されていますし、L-ACOUSTICS®により、リコーンを行うこともできます(セクション8.4)。

LFラウドスピーカーを取り外す(HFドライバーを含む)

1. エンクロージャーを平らな場所に置き、グリルのある側をユーザーに向けます。
2. グリルを取り外す: 両サイドのトルクスネジ(T30)を取り外し、グリルを持ち上げます(マイナスインドライバーを使用)。
3. ラウドスピーカーの同軸アッセンブリを取り外す: 6角ネジ 4個(4 mm)をスプリットワッシャーとフラットワッシャーと共に取り外し、ラウドスピーカーを持ち上げます(マイナスインドライバーを使用)。
4. LFコーンを下に向け、エンクロージャーの前にラウドスピーカーの同軸アッセンブリを置きます。
5. トランスデューサーの電子ソケットからケーブル4本(赤2、黒2)を取り外します。
6. HFの熱発散プレートから両方の6角ネジ(4mm)を取り外します。
7. HFアッセンブリを取り外します。

LFラウドスピーカーをリプレースする

1. コーンを下に向け、エンクロージャーの前にLFラウドスピーカーを置き、LFの電子コネクタをユーザー側に向け(この場合、短い方のHFケーブルはLFのソケットに届かなくなります)。
2. LFラウドスピーカーにHFのアッセンブリを取り付けます。赤いラベルの電子ピンを同じ側にし、HFの熱発散プレートを通して両方の6角ネジを締めます(6角 4mm, 5 N.m)。
3. トランスデューサーの電子ソケットに4つのケーブルを接続します: **短いケーブル両方をHFのソケットに接続し、長いケーブル両方をLFのソケットに接続します**(トランスデューサーに対しては: **赤いケーブルを赤いラベルの付いたピンに、ラベルの付いていないピンには黒いケーブルを接続します**)。
4. エンクロージャーにラウドスピーカーアッセンブリを取り付け、スプリットワッシャーとフラットワッシャーとともに、6角ネジ 4つを締めます: スプリットワッシャーを入れてから、フラットワッシャーを入れ**(この手順に従ってください)**、4ヶ所の内の1つにアッセンブリをネジで取り付けます(6角 4mm, 3 N.m)。
5. グリルを取りつけ(ロゴがダクト側にくるよう)、トルクスネジを締めます(T30, 3N.m)。

8.3.2 HFドライバーまたはダイアフラム

損傷がある場合、HFダイアフラム、またはHFドライバー全体を下記の手順で取り外し、交換してください。

HFドライバー、またはダイアフラムを取り外す

1. エンクロージャーを平らな場所に置き、グリルのある側をユーザーに向けます。
2. グリルを取り外す: 両サイドのトルクスネジ(T30)4つを取り外し、グリルを持ち上げます(マイナスインドライバーを使用)。
3. ラウドスピーカーの同軸アッセンブリを取り外す: 6角ネジ 4つ(4 mm)をスプリットワッシャーとフラットワッシャーと共に取り外し、ラウドスピーカーを持ち上げます(マイナスインドライバーを使用)。
4. コーンを下に向け、エンクロージャーの前にラウドスピーカーの同軸アッセンブリを置きます。
5. HFドライバーの電子ソケットから両方のケーブルを取り外します(赤1、黒1)。
6. **ダイアフラムのみを取り外すには:** ドライバーのバックカバーからポジドライブネジ 4つ(PZ.2)を外し、マグネットからダイアフラムを取り出します。
HFドライバーを取り外すには: 熱発散プレートから、両方の6角ネジ(4 mm)を外し、LFスピーカーからHFアッセンブリを取り外します。熱発散プレートの後部にある両方のトルクスネジ(T30)を外し、プレートからドライバーを取り外します。

HFドライバー、またはダイアフラムのリプレイス手順

1. HFドライバー全体を取り付けるには:

- a. 熱発散プレート上に新しいドライバーを取り付けます(必要に応じ、古いサーマルペースト上に少量のサーマルペーストを、連続して円状に追加します)。
- b. プレートの後部にある両方のトルクスネジを締めます(T30、5 N.m、ネジロック剤使用)。
- c. LFスピーカーにHFアッセンブリーを取り付け、プレート越しに両方の6角を締めます(6角 4mm、5 N.m、ネジロック剤使用)。

ダイアフラムのみを取り付けるには:

- a. ドライバー上のボイスコイルの隙間にゴミなどが無いことを確認してください、必要に応じ、両面テープを用い、隙間を掃除してください。
- b. 隙間に新しいダイアフラムを取り付けます。
- c. ドライバーのバックカバーにポジドライブネジ4つを締めます(PZ.2、3 N.m)。注: ネジを締めるときは常に、各ネジのトルクを平衡させ、ダイアフラムが中心に位置するようにしてください。

2. 新しいダイアフラムの電子ソケット両方にケーブルを接続します: 赤いラベルの付いたピンに短い赤いケーブルを接続し、ラベルの付いていないピンに短い黒いケーブルを接続します。

3. エンクロージャーにラウドスピーカーのアッセンブリーを取り付け、スプリットワッシャーとフラットワッシャーと共に、6角ネジ4つを締めます: スプリットワッシャーを入れてから、フラットワッシャーを入れ(この手順に従ってください)、4ヶ所の内の1つにアッセンブリーをネジで取り付けます(6角 4mm、3 N.m)。

4. グリルを取り付け(ロゴがダクト側に来るよう)、トルクスネジ4つを締めます(T30、3 N.m)。

8.4 スペアパーツと推奨する道具

表 5: 入手可能なスペアパーツ

HP BM12	1.5インチのドライバー - 8 Ω
HS BM12	1.5インチのドライバー用ダイアフラム - 8 Ω
HP PH84	8インチの同軸スピーカー - 8 Ω
HS PH84	8インチのリコーンキット
HR PH84	8インチのリコーンキット(工場での修理含む)
SE GRL8XTI	フロントグリル(黒)
SE GRL8XTIW	フロントグリル(白 RAL9010®)

表 6: 修理に推奨する道具

トルクレンチ(N.m)
PZ2 のポジドライブビット
4mm の 6 角ビット
T30 のトルクスビット
4mm の マイナスドライバー
中強度のネジロック剤(青)
サーマルペースト

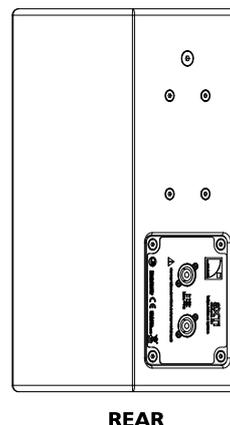
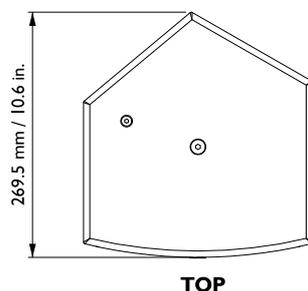
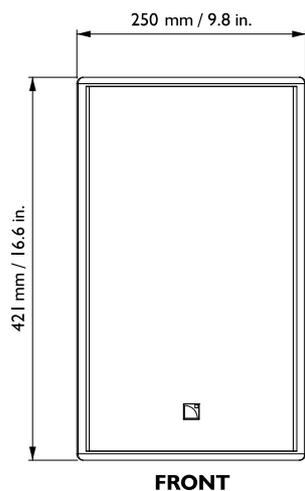
8XTi COAXIAL ENCLOSURE

USER MANUAL

VERSION 1.0

9 仕様

品名	8XTi	
周波数特性		
有効周波数(-10dB)	65 Hz - 20 kHz	([8XT_FR] プリセット)
最大SPLレベル ¹	127 dB	([8XT_FI] プリセット)
公称の指向性(-6dB)	100° , 軸対称	
トランスデューサー		
LF	8インチ耐候性トランスデューサー1つをバスレフ型エンクロージャーにマウント	
HF	1.5インチのダイヤフラム・コンプレッションドライバー1つを8インチのLFに同軸配列	
フィルター	パッシブ(3次)クロスオーバーネットワーク	
公称インピーダンス	8 Ω	
入力(連続)	280 W ([8XT_FI] プリセット)	
コネクター	2 x 4ピンスピコン(平行結線)	
寸法(H x W x D)	421 x 250 x 269 mm	



重量	11 kg
フライング	<ul style="list-style-type: none">⇒ L-ACOUSTICS® ETR8XTi アクセサリーを使用して、壁や天井にマウントする(別売り)⇒ OMNIMOUNT® 30.0シリーズのマウントアクセサリーに対応のインサート(4ヶ所)を使用して壁・天井にマウントする⇒ セーフティ用・アイボルト挿込口
スタッキング	<ul style="list-style-type: none">⇒ 垂直面に対して30° と40° に設定された2ヶ所の固定アングル⇒ ポールマウント用にL-ACOUSTICS® EMBi 35mm径ソケット(別売り)
外装	
マテリアル	15 mmバルト地方産樺の合板
標準塗装	グレイブラウン RAL8019®(8XTi)または白RAL9010®(8XTiW)
特注塗装	RALコード特注
フロント	ポリエステルでコーティングされたスチールグリル、音響透過性エアネット繊維
リギング	ポリエステルでコーティングされたスチール

¹ プリセットと適切なEQセッティングで、10dBのクレストファクターを持つピンクノイズを用いて計測した、自由空間上1mでの最大音圧

お問い合わせ先

 **ベストックオーディオ株式会社**

本社：〒130-0011 東京都墨田区石原 4-35-12 ☎ 03-6661-3825 FAX：03-6661-3826
大阪（営）：〒531-0072 大阪市北区豊崎 3-4-14-602 ☎ 06-6359-7163 FAX：06-6359-7164
www.bestecaudio.com info@bestecaudio.com

Document reference: 8XTi_UM_ML_I-0

© 2009 L-ACOUSTICS®. All rights reserved.
**No part of this publication may be reproduced or transmitted in any form
or by any means without the express written consent of the publisher.**

Distribution date: January 7th, 2010